

## ■第6回武蔵野市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

●日時：平成30年10月26日(金) 19:00～21:00

●場所：武蔵野市役所 412会議室

●武蔵野市緑の基本計画検討委員会 出席者9名、欠席者1名

阿部委員長、秋田副委員長、池田委員、喜内委員、小松委員、鈴木委員、曾田委員、田中委員、平田委員

●事務局

- ・環境部 緑のまち推進課 関口課長ほか9名
- ・株式会社総合設計研究所：2名

●次第と主な議論内容

### 1 報告事項

(1) 第5回検討委員会の報告

- ・平成30年8月に開催した検討委員会の主な意見について確認し、これまでの委員会での検討経緯を共有した。

### 2 議事

(1) 素案について

- ・事前に委員と共有した素案たたき台について意見の報告とともに、意見をもとに修正した素案について説明し、意見交換を行った。

#### 【素案の概要】

- 1章 武蔵野市の緑の経緯と概要
- 2章 緑の基本計画2008の評価
- 3章 計画の基本的な考え方
- 4章 理想とする姿を実現するための施策について

●主な意見のまとめ ⇒：委員の意見または事務局の回答

【1章 武蔵野市の緑の経緯と概要について】

- ・「武蔵野市の緑の概要」に市民意識を追記したことは良いことと思う。合わせて市政アンケートの一番取組んでほしい施策について、緑に関する施策の順位が変わっている状況を示すと良いのではないか。
- ・緑化の助成制度など、現在の施策を書き込んではどうか。
- ・緑に関する良い面だけでなく課題も合わせて示してはどうか。

【2章 緑の基本計画 2008 の評価について】

- ・緑被率 30%を達成したとしても、市全体で見たとき緑の集中している地域とほとんどない地域となっては良くない。地域ごとに緑被地面積のバランスをとることを示してはどうか。
- ⇒防災や生物多様性の観点においても緑の配置やバランスは大事である。記載内容を検討する。
- ・内容が重複している箇所を整理しシンプルな構成とするとともに、数字で示せる部分は示した方が市民にも伝わりやすいのではないか。
- ⇒意見を踏まえ整理する。
- ・根拠となる数値等の情報が少ない。住宅地の緑や農地の減少などの推移をグラフやデータで示すと、緑の減少に対する危機感を共有できると思う。
- ⇒図・グラフ・データを追加し、目で見て推移がわかるよう工夫する。

【3章 計画の基本的な考え方について】

- ・「理想とする姿」について、「理想」という言葉は、実現できない可能性も含んでいるように思う。現行計画と同様に「将来像」とするか、「目指す方向」とするのはどうか。
- ⇒緑の基本計画での一般的な表現は「将来像」だろう。
- ⇒表現を検討する。
- ・理想とする6つの緑の1つ「ゆとり・文化・歴史の緑」で、「緑豊かでゆとりのある住宅街」という表現があるが、現在ではゆとりのある住宅街ではなくなっているため、現状について記載してほしい。
- ⇒現行計画では、「武蔵野市らしい緑」としていたが、曖昧さを含む表現であったため、具体的に、理想とする姿を示している。現状については、第一章、第二章で記載しているが、図などを用いわかりやすい表現方法を検討する。
- ・計画のテーマ「日々の暮らしの中で緑を楽しむ」は人の暮らしに着目したテーマであるが、第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会の提言書でも生物多様性の視点が入っているので、サブタイトルなどに入れてはどうか。

⇒生き物の生息環境としても緑は重要であるが、担当部署で策定している生物多様性基本方針の内容との重複に留意し、記載内容を検討する。

・緑被率の目標については、現行計画では、策定から10年後(平成29年)に25%、20年後(平成39年)に26%とするものであったが、現状25%を達成できていない。新たな計画では、現行計画で20年後とした26%を10年後の目標としているため、実現可能性の精査が必要ではないか。

⇒緑被率については、「理想とする姿」に、3割以上を確保する旨を記載している。緑被率の変化は、様々な要因が関係するため、具体的な目標は、ご意見を踏まえ検討する。また、民有地、公有地の緑をどのようなバランスで確保していくかについては、第4章個別施策「緑被地面積の確保目標の検討」の中で具体的に検討していく。

・「緑の方針」の農地に関する記述は良いが、さらに農地の減少に対する危機感や農地の必要性を表現できると良い。

・市内の農地は年間1ha程度減少している。市で生産緑地を買い取り、農業公園を整備することは良いと思う。

⇒「緑の方針」農地の保全の方針に市内の農地の現状や役割について記載するとともに、生産緑地の買い取りや保全の方針を示している。

#### 【4章 理想とする姿を実現するための施策について】

・前回の計画と比べ新たな計画では、「協働」について方向性が示されていないように思われるが、この計画はどのようなスタンスとなるのか。

⇒今後も協働を推進していくことに変わりないが、官主導ではなく活動支援などを見据え「連携」が中心になると考える。

・近隣区市との連携だけでなく、奥多摩から武蔵野市までの緑や水辺のつながりを表現する言葉があるといい。

⇒玉川上水や千川上水などのつながりを踏まえ、近隣区市に限らない広域的なつながりを表す言葉を検討する。

・個別施策の内容は良いと思う。施策の実現には、取組む主体が重要である。目標を達成できるよう、それぞれが連携し新たな活動が生まれるといい。

・取組む主体が示されていることは良いが、行政が取組むことについては、具体的にどの部署で取組むのかの記載について、今後庁内で表現を調整してほしい。

⇒記載方法を検討する。

・緑地の評価については、事例で示しているシージェスの他にもあるため、シージェスに限らなくてもいいのではないか。

⇒評価の事例の一つとしてあげている。今後、様々な手法を検討していきたいと考えている。